

彩遊祭樂

三谷市民文化振興財団ニュース



石川県の郷土料理

かぶらずし

塩漬けしたかぶら（かぶ）に塩漬けしたブリを挟んで、麹で発酵させた石川県を代表する伝統的発酵食品。冬の味覚として知られ酒の肴やお茶請けとして人気があるが、正月料理にも欠かせない。江戸時代、「ブリー一本、米一俵」といわれるほどの高級食材で、質素儉約を強いられていた庶民が口にすることは滅多になかったという寒ブリを、何とか口にしようと、かぶらで挟んで食べたのが始まりという説もある。



あいまぜ

三方を海に囲まれた能登半島で栽培される野菜は、赤土に代表される粘りの強い土壤によって独特の風味があり、「能登野菜」としてブランディングされている。「あいまぜ」は、主に能登地域で食べられている伝統料理。大根や人参などの根菜類を中心を使つた煮物で、各地域で採れる旬の野菜が使われるため見た目や味わいはさまざま、地域性が豊かな点も、この料理の特徴のひとつと言える。



じぶ煮

大きめのそぎ切りにした鶏肉に小麦粉をまぶし、すだれ麩や野菜と一緒に出汁や醤油で煮た「じぶ煮」は、加賀藩を取り上げた映画に登場するほどの石川県を代表する煮物。小麦粉によって肉の旨味をとじこめ、汁にとろみがつくため寒い冬でも体があたたまる。始まりは武家料理と言われているが、現在は家庭でのおもてなしや、特別な日の料理として食べられ、季節によっては旬の魚介が加わることもある。



加賀太きゅうりのあんかけ

加賀野菜のひとつである加賀太きゅうりは、その名の通り長さ20cm、太さは5cm、重さは500gを超えるほどの大きなきゅうりで、金沢市、かほく市が主な産地となっている。ひと口大に切った加賀太きゅうりを下茹でし、ひき肉やエビなどとともに火にかけて煮た後、くず粉や片栗粉でとろみをつけてあんかけにする。肉厚な身は青臭さがなく、火を通すと柔らかくなるため、食欲が減退する暑い盛りは、特に好んで食べられる。



出典:農林水産省Webサイト https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_youri/search_menu/area/ishikawa.html

一般財団法人 三谷市民文化振興財団

〒910-0857 福井県福井市豊島1-3-1 三谷ビル
TEL: 0776-20-3188 FAX: 0776-20-3306

2025年5月発行・このニュースに関するお問い合わせは、03-6451-0536 ホーピスト(株)まで

ふくいの無形文化財

勝山左義長 2月最終土日

左義長は小正月に行われる火祭りで、全国各地で行われている行事であるが、勝山左義長は300年以上の歴史を誇り、奥越地方に春を呼ぶ祭りと言われている。各町内に建てられた12基の櫓の上で、赤い長襦袢姿の大人たちが子供を交え、独特のおどけ仕草で三味線、笛、鉦による軽快なテンポの囃子にのって浮かれる。これは勝山左義長だけの特徴であり、奇祭と呼ばれている。(勝山市)



ふるさとめぐり

伝説

第17回 勝山市

…弁慶爆走伝説…

源頼朝に追われて逃避行の最中の弁慶があるとき、平泉寺の鐘を鳴らし、鐘の音が鳴りやむまで何里走れるかを試してみた。弁慶は鳴鹿（現在の坂井市）辺りまで走つて立ち止まり、耳をすますとやがて鐘の音が聞こえたという。平泉寺の白山神社へ行く山道の中程に弁慶の足跡があり、これを踏むと走るのが速くなるという言い伝えがある。



句碑

うらやまし
浮世の北の
山桜
松尾芭蕉



「金沢は静かな場所でうらやましい。私は今江戸にいて浮世の問題に悩まされています」という句である。「浮世の北」は北国金沢の意。金沢の卯辰山に隠棲していた、門人の句空に詠み送ったものと言われ、句空を山桜に例えている。

伝説・句碑に会いに行く

平泉寺白山神社 ■住所: 勝山市平泉寺町平泉寺56-63

ブンカのかがみ

一般財団法人三谷市民文化振興財団 助成団体募集!!

募集期間：2025年10月1日～11月30日

一般財団法人 三谷市民文化振興財団は、福井県内におけるボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の振興を通じて「こころ豊かな地域づくり、社会づくり」に貢献することを目的として、2025年度の助成団体の募集を行います。

▶募集の要領

- 助成の対象分野
 - ・ボランティア活動
 - ・スポーツ活動
 - ・市民文化活動

●助成の対象となる団体

■**■** 営利を目的としない次の条件を満たす団体

- NEW 1. 福井県および石川県内で活動している団体
- 2. 会員が5名以上の団体
- 3. 設立1年を経過している団体
(2024年10月以前に設立したもの)
- 4. 特別な資格・経歴等の条件を必要としない、個人で加入できる民間の団体

●助成金額 1件あたり約20～50万円

●応募方法 所定の申請書をホームページからの電子申請、郵送およびご持参ください。

●結果連絡 選考委員会による審査で決定し、2025年12月末までに団体代表宛に連絡いたします。
(採否の理由に関するお問い合わせには応じ兼ねます。)

●助成金贈呈時期 2026年1月下旬

上記より詳しい募集要領がございます。
以下にお問い合わせをしてから、ご応募ください。

まずはお問い合わせを！

★ホームページから募集要領を読む

三谷市民文化振興財団のホームページへアクセス

<http://www.mitene.or.jp/m-zaidan/promo.html>
または検索エンジンで↓

三谷市民文化振興財団

|クリック|



★お電話で募集要領を取り寄せる

☎ 0776-20-3188 (一財)三谷市民文化振興財団



■越前一張羅 ※練習見学、体験は随時受付中。

福井フェニックスまつりの第1回「YOSAKOIイッショライ大会」に、「気分はいっちょらい」チームとして参加し大賞を受賞した「越前一張羅」は、札幌市で開催されている「YOSAKOIソーラン祭り」への参加を目指して26年前に結成された。園児から60代までの約40人が週に1～2回、3時間の練習を実施。チームのメンバーは医療・福祉関係者が多く、高齢者や障がい者福祉関連施設でのイベントに積極的に参加し、元気と笑顔を届けている。福井国体の際には、他チームと協力して開会式の演目を作り上げ、会場を盛り上げた。県外の祭りやイベントに招待されることも多い、県を越えてイッショライ踊りといッショライ節の普及に努めている。

福井市

「越前一張羅」

ヨサコイイッショライの楽しさを伝える

「長男が継がないと聞いた時、この仕事を残したいと強く思い、転職を決めました。やり始めてみると工程の多さや時間のかかる作業に改めて驚き、父の偉大さに感動したのを感じています。父の作業や手元を見ながら技を習得していましたが、ついで約1年後に父が病に倒れました。それ以降は、言葉でアドバイスをもらうようになつたので、技の習得にはかなり遠回りをしました」

「器や箸など木地が届くと、模様を置き、色漆を塗り、金箔を置いて、漆を塗る。塗つて乾燥を何度も繰り返して漆で模様を埋めた後は、模様が出るまで研いでいきます。模様が出てきたら表面を滑らかにするために炭研

若狭塗は、幾重にも塗った漆を丁寧に研ぐことで、松葉や卵殻、貝殻などの美しい模様が現れてくることから、宝石塗とも呼ばれる伝統工芸品である。伝統工芸士を父にもち、小学生の頃は研ぎの手伝いもしたという古川さん。学校を卒業後、県外で自動車関連の仕事に就くも、35歳の時に家業を継ぐことを決めた。

若狭塗は、幾重にも塗った漆を丁寧に研ぐことで、松葉や卵殻、貝殻などの美しい模様が現れてくることから、宝石塗とも呼ばれる伝統工芸品である。伝統工芸士を父にもち、小学生の頃は研ぎの手伝いもしたという古川さん。学校を卒業後、県外で自動車関連の仕事に就くも、35歳の時に家業を継ぐことを決めた。

若狭塗だけが持つ独特的の美しさと父から学んだ伝統的な技術を後世につないでいきたい。

古川勝彦



福井市

「ボランティアグループ・ふくいおもちゃ病院」

おもちゃの修理再生を通して、子供たちにものの大切さを伝える



■ふくいおもちゃ病院 ※詳細はホームページをチェック！

福井県安全環境部が基本計画に掲げている「物を大切にする社会づくり」に賛同して、12年前に立ち上げられた同団体は、毎月第3日曜日に福井県総合グリーンセンターで「おもちゃ病院」を開催している。

「おもちゃ病院」では、壊れたおもちゃを原則、無償で修理。ボランティア精神にのっとり、おもちゃの修理を通して子供たちにものを大切にする心と、メカニズムの面白さを伝えている。

会員は修理技術や知識の習得に努め、月に1～2回の頻度で出張開催も行っていて、不要になつて寄付されたおもちゃは修理、整備を施した後、乳児院や子育て支援施設に寄贈し、地域への貢献も大きい。

●ふるかわ・かつひこ／1976年小浜市生まれ。高校を卒業後、静岡県の自動車関連企業に就職。その後、35歳で帰省し家業を継承。古川若狭塗店の4代目。

「インパウンド効果で、若狭塗に魅了される外国人も増えています」と古川さん。



古川若狭塗店は創業約150年。いい模様は、古川家に代々受け継がれている。

ぎ、磨きを経て完成。この間、約1年です。どの工程も大切ですが、一番の気を遣うのは研ぎです。研ぎ過ぎると元には戻せませんから。松葉や卵殻、貝殻などの模様置きは、仕上がりをイメージできるので楽しいですね」

昨年は新しいことにも挑戦して、実演や販売会に参加しながら、若狭塗を多くの人にPRしていきたいです」

現在、若狭塗の伝統工芸士はわずか4人で、49歳の古川さんが一番の気を遣うのは研ぎです。研ぎ過ぎると元には戻せませんから。松葉や卵殻、貝殻などの模様置きは、仕上がりをイメージできるので楽しいですね」

「いろいろなことに挑戦して、実演や販売会に参加しながら、若狭塗を多くの人にPRしていきたいです」

「いつも以上に手間のかかる作業でしたが、良いモノに仕上がりました。いろいろなことに挑戦して、実演や販売会に参加しながら、若狭塗を多くの人にPRしていきたいです」

企業から声がかかり新商品制作に携わった。

「今年は新しいことにも挑戦した古川さん。若狭塗の企画販売を手掛けている企業から声がかかり新商品制作に携わった。

「今年は新しいことにも挑戦した古川さん。若狭塗の企画販売を手掛けている企業から声がかかり新商品制作に携わった。